

別記様式（第 5 条関係）

会 議 録

会議の名称		令和 6 年度第 1 回スポーツ推進審議会
開催日時		令和 6 年 7 月 23 日（火） 18:30～20:30
開催場所		市役所 別館 1 階 大ホール
委員名		（１）出席委員 生田会長、阿部副会長、麻生委員、内山委員、木村委員、中生委員、的場委員、藤岡委員 欠席委員 増井委員、篠崎委員
所管課職員職氏名		教育委員会教育部長 石津 輝昭 郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課スポーツ文化振興係長 高八重 あゆみ 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人
会 議	議 題 （内 容）	○福津市スポーツ推進計画中間見直しの概要について ○アクションプラン 2019 年度～2023 年度の成果報告について ○アクションプラン 2024 年度～2028 年度（案）について ○その他
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	○令和 6 年度第 1 回福津市スポーツ推進審議会次第 ○福津市スポーツ推進計画中間見直しについて ○福津市スポーツ推進計画アクションプラン 2019 年度～2023 年度 ○福津市スポーツ推進計画の体系〈見直し案〉 ○福津市スポーツ推進計画アクションプラン 2024 年度～2028 年度〈案〉
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録

	記録内容の確認方法 会長による確認
その他の必要事項	

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）
開会の言葉 （事務局挨拶、自己紹介、配布資料の確認） 1. 教育部長挨拶 （石津教育部長からあいさつ） 2. 委嘱状の交付 （机上に委嘱状の交付） 3. 委員自己紹介 （委員の自己紹介） 4. 会長選任 〈事務局〉 どなたか会長をという方がいらっしゃれば挙手をお願いしたい。 いらっしゃらなければ、生田委員に会長をお願いできたらと考えているが、いかがか。 （出席委員全員の承認） それでは、生田委員に会長をお願いすることとする。 また、副会長を置くことになっているので、阿部委員に副会長をお願いできたらと考えているが、いかがか。 （出席委員全員の承認） それでは、阿部委員に副会長をお願いすることとする。 （会長あいさつ） それでは、以降の議事進行は生田会長にお願いする。 5. 議事 〈会長〉 それでは、議事に移る。議事(1)について事務局から説明を。 〈事務局〉 議事(1)として、「福津市スポーツ推進計画中間見直しの概要」について説明させていただく。 （福津市スポーツ推進計画中間見直しの概要について説明） 〈会長〉 令和元年から5年までで前期が終わり、中間見直しということで令和6年度以降のアクションプランを策定するために昨年度から審議している。今事務局から説明があったところで質問や意見があればお願いしたい。 〈委員〉

障がい者計画は各施設や障害者の協会関係に計画書を配ったり、説明会をしたりされている。スポーツ推進計画はどこに設置されていて、過去に説明や周知はされているか。

〈事務局〉

策定の際に市民の意見を聞いたり、パブリックコメントを募集したりしているが、それ以降は教育委員会と市のホームページ上でしか閲覧ができない状況で各団体に配ることはしていない。

〈委員〉

6、7年程前からほぼ毎年、障がい者スポーツの普及のため福津市内の小学校を回り、子どもたちに向けた車椅子の操作や車いすスポーツの体験活動を実施している。回数は多くないが、長年周知に努めている。

スポーツ推進計画についても、もう少し周知をしたほうがよい。今ネットという話が出たが、身障者協会の会員は平均年齢 80 歳程で、ネット使用が一番苦手な分野。ホームページへの掲載だけではなく、直接配布したり説明したりしてほしい。以前、市の障がい者計画が策定された時は、福祉課が説明に来られた。そのようにしていただけると非常にありがたい。

〈会長〉

これまで、当計画はなかなか市民の目に触れていなかったのかもしれない。後期計画は様々な団体の方がそれに基づいて活動できるように、あるいは市民の皆様にももう少し目に留めていただける機会が増えるようにしたい。

続いて議事(2)について事務局から説明を。

〈事務局〉

議事(2)として、「アクションプラン 2019 年度～2023 年度の成果報告」について説明させていただく。

(アクションプラン 2019 年度～2023 年度の成果報告について説明)

〈会長〉

質問・意見があればお願いします。

〈委員〉

16 ページの「大学連携」についてだが、福岡教育大学のラグビー部の学生と連携するということに興味を持った。しかし実績を見ると未実施となっている。過去に上西郷小学校で専用の車いすを用いて車いすバスケットを行ったことがあるが、車いすバスケットを身近に感じてもらうきっかけとなり、子どもたちは大変喜んでくれた。スポーツに実際に触れる機会を創ることは大変重要なことで、これを福岡教育大学の学生と連携して行うことはよい視点だと思うので、次年度ぜひやってもらいたい。

〈会長〉

当時、ラグビーワールドカップの開催を控えた中での取り組み目標だと思うが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり未実施となっている。今回推進施策に新たに加わる中学校部活動の地域移行など、今後地域のスポーツ連携が大きく動いていく。大学を含め、地域全体で子供たちがスポーツに出会うきっかけが作られる取り組みが増えていくといい。こちらは前期のアクションプランになるので、今回の見直しの中で少し整理をしている。

2023年度の実績値が入ったものを今回初めて出していただいた。新型コロナウイルス感染症が明け、若干ではあるが数字が戻ってきている事業もある。伸び悩んだところもあるが、コロナ前の状態に戻ってきている事業が多いので、この勢いで後期に繋げていければいい。

今日の一番の議事の大きなポイントになってくるのは「(3) アクションプラン 2024年度～2028年(案)」である。見直しスケジュールから言うと、本日、案についてご意見をいただいた上で、再度事務局の方で練り直してもらったものが10月頃ある程度確定し、これが後期5年間のアクションプランになる。それでは議事(3)について事務局から説明を。

〈事務局〉

福津市スポーツ推進計画の体系案については、将来像・基本方針は前期の内容を引き継ぎ、推進施策・具体的な取り組みは昨年度ご審議いただいた内容をもとに、案を作成しご提示をしている。

前期5年間からの主な変更点について、1点目は「スポーツをしよう・みよう・ささえよう」の三つの項目の共通する重点取組事項として、「スポーツに関する情報収集・発信」を位置づけた。

2点目、3点目は、「スポーツをしよう」の具体的な取り組みの中に「⑤女性のスポーツ活動の推進」・「⑧海洋スポーツ活動の推進」を追加した。

最後4点目、「スポーツをささえよう」の中に「中学校部活動の改革」を追加し、具体的な取り組みとして「中学校部活動の環境整備」と設定した。これらが前期からの主な変更点になる。

次にその数値目標について、2028年度の最終目標値を表記のとおりとした。なお2023年度の実績値については、「週1回以上スポーツを実施する人の割合」の結果のみとなっている。本来市民意識調査において他の3項目を含めた全4項目の質問を行う予定だったが、昨年度、質問項目希望調査時に3項目をあげ損ねてしまい集計することができなかった。週1回以上スポーツを実施する人の割合のみの実績評価しかできない結果となってしまったことをお詫びしてご報告する。

続いて「アクションプラン 2024年度～2028年度案」について説明させていただきます。

(アクションプラン 2024年度～2028年度案について説明)

〈会長〉

ただいま説明いただいたように、昨年度からの審議を重ね、かなり整理された。2023年度の数値目標が全て上がってこなかったが、週1回以上スポーツを実施する人の割合は54%ということで、目標にかなり近づいていると思う。それぞれの基本方針について、2028年度には1年間にスポーツ観戦した

ことがある人の割合は50%、1年間にスポーツをささえる活動に参加した人の割合は15%、スポーツイベントや大会に参加した人の割合は30%、という数字はこのアクションプランによって実現できればと思う。初めて参加される委員の皆様は、気になる点があると思うのでご意見いただければと思う。

〈委員〉

設定されている数値目標は実現可能なものなのか。国や県が設定した数値に準じているのか。

〈事務局〉

そのとおり。

〈会長〉

アンケート自体は毎年やっているのか。

〈事務局〉

市民意識調査は毎年行っている。

〈会長〉

2028年度の前までに1度アンケートが取れるとよい。

〈委員〉

計画の中に体育協会が実施主体としていくつか上がっているが、具体的な進め方を相談したことがない。実施主体となる組織と会話する必要があるのではないかと感じている。意見を出しながら、なるべくいい方向に進むように動いていきたいと考えている。

情報発信については、経費が掛かる問題で非常に難しいが我々も必要と考えている。ただどういう形でやっていくか早急に結論を出さないと1、2年後では遅すぎるので、今期はそこを解決していきたい。

〈会長〉

今ご指摘いただいたのが「スポーツに関する情報収集・発信」のところ
で、「スポーツをしよう・みよう・ささえよう」の全てで重点的に取り組むべき事項として挙がっている。関係団体との具体的な進め方についてはまだ決まってはいるが、アクションプランの重点取り組み事項として定めることでスタート地点に立ったのではないかなと思う。あとはこのアクションプラン自体を関係部署・団体と共有し調整を図りながら進めていけたらと思う。

〈委員〉

率直に知らなかったと思うことがたくさんあり、事前に資料に目を通していたが、もっと市民に周知していくことが大事だと思った。今子育てをしている身で、地域の子育てや親子の居場所作りに関わっているが、それに関連して伺いたい。1-②の事業について実施主体に割と一任されている内容にな

っているが、目標の数値は参加された方の人数になるのか。

〈事務局〉

その通り。

〈委員〉

そうであれば、実施主体の方にスポーツ推進に向けた思いが具体的に伝わっているのか少し気になった。これらの事業がスポーツ推進の一環として実施されていることを伝える必要があると思う。子育て支援センターに行かれる保護者の方の中には初めての子育ての方もいると思うので、子どもの心や体にとってスポーツはとても大事という点に知識として触れることで次に繋がっていくと思う。もっと土台の部分に力を入れていくべき。

また子育て世代の方は、福津市公式 LINE の登録者が多く、そこから情報を得ていると思っている。私もこのスポーツ推進審議会のことを公式 LINE で知った。正直ホームページはあまり見る機会がない。情報は自分から取りに行くよりも、勝手に入ってくる公式 LINE の活用を進める方がよいと思う。

今後はスポーツ推進への取り組みをアピールし、周知に繋げてほしい。Instagram や X を活用していきたいという話があったが、福津市のアカウントはあるのか。

〈事務局〉

Instagram は課で持っているところもある。

〈委員〉

LINE 等を活用して、周知に力をいれていただければと思う。

〈会長〉

公式 LINE の活用や、アクションプランの周知の必要性について、現状を踏まえてご発言いただいた。アクションプランに関連する各団体等との繋がりについて、今後積極的に取り組んでいただけるとよい。

〈委員〉

一番気になっているのが「スポーツをしよう」の中の 1-④「高齢世代のスポーツ参加促進」について。地域で様々な活動を行っているが、情報発信という点では高齢者になると自分を含め SNS ができない方が多いので、いかに高齢者に呼び掛けていくかが大きな課題になっている。区長さんの手を借りながら、地道に声掛けをしていくしかないと思うが、高齢者の耳に届くような発信の仕方があれば案をいただきたい。

あとは施設整備についてだが、先日、福祉会主催のスカットボール大会がありたくさん的高齢者が集まったが、この時期で体育館がとても暑かった。宗像市の学校体育館には冷房設備が整っていると聞くので、快適にスポーツを行うためにも空調設備について考えていただきたい。小学校の教室は冷房がよく効いているそうだが、体育館にはなく、そこでの運動は気温差的にもどうなのかと感じた。また、気候のよい大会シーズンは施設の予約が集中す

ることもあるため、運動する機会を確保するという点からも空調設備を整えていただければと思う。

〈会長〉

高齢者にとって SNS は手段として少し合わないというご指摘があった。また施設について体育館の空調整備の話があった。体育館は災害時の避難場所としても使用されることがあるが、各自治体ではそういった視点でも空調整備が進んでいるところと思う。福津市では体育館は避難所になっていないのか。

〈事務局〉

避難所に指定されてはいるが、夏場は暑いため、郷づくり交流センターが体育館より先に開設されることが多い。

〈委員〉

情報発信についていろいろ出ているが、情報収集に力を入れ、地域で開催されている様々なイベントと提携していけば、スポーツ活動はさらに膨らむのではないか。例えば、体育協会が行っている卓球大会など、地域や各団体の中で流行っている卵になるようなイベントを統一すれば大きなイベントになる。事務局だけで探せと言われても大変だろうが、たくさんの情報を拾い上げる方法を考え実行すれば、結果的に目標数値の達成にも近づくのではないか。

〈会長〉

情報を収集していく中で、注目できるような取り組みが分かってきて、そこが紹介されるだけでもかなり広がりが出てくると思う。情報発信も、収集の仕組みが確立されれば、情報が入り循環していく。情報収集・発信に課題があるなかで、しっかり取り組むことで活動の促進に期待ができる。

〈委員〉

学校関係でいくつか確認したい。まず 1-③「小・中学校におけるスポーツ活動支援」の指標は“小学 5 年生の体力テストの結果”でいいのか。体系では“週に 1 回以上スポーツする人の割合”を達成目標の目安としているが、そこの整合性はどうか。また小学 5 年生だけではなく、中学校の指標は必要ないのか。指標の内容を検討してほしい。

また、取り組みの内容が実際の学校体育の取り組みとマッチしていない部分がある。前回も言ったが、福岡県内の小学校では「チャレンジランキングゾーン」という事業で、1 校 1 取り組みの体力向上プランを作成し実施している。チャレンジランキングゾーンには登録システムがあるが、登録学級数が増えることが運動する子どもたちの増加に繋がるため、その登録学級数をアクションプランの指標とすることも考えられる。学校体育で取り組んでいる内容とマッチする計画にする必要がある。

また体力テストは基本的に年に 1 回のみで年度初めに行うため、取り組みを行う前に既に結果が出ているような状況。その辺りも実状とマッチしていな

い。他には、タグラグビーやニュースポーツ、PTA のサポートといった、地域から派遣されたインストラクターやゲストティーチャーによるイベントを行っていて、そのような内容をプランに反映させるとよい。

次に 1-⑧で新設された「海洋スポーツ活動の推進」についてだが、指標の目標水準が 8 校となっている。福津市内には小学校は 7 校しかないが。

〈事務局〉

2027 年度に宮司地区に小学校が新設される予定のため、8 校で計上している。

〈委員〉

小学校数については、現状を考慮し 1 年ほど余裕をもった数値に設定にした方がよいのでは。

海洋スポーツ事業は宗像市の小学校も参加しているため、実際申し込んでも日程がなかなか合わないことがある。そのような状況のなかで、目標設定に少し無理があるのではないか。学校事情や施設の状況によっては使用できないこともあると思う。

4-②「学校体育施設開放の推進」についてだが、今年から熱中症対策ガイドラインが学校に出されており、熱中症警戒アラートが発表されたら学校現場では暑さ指数等を計測した上で、場合によっては体育館や運動場の利用を中止することがある。しかしその後の学校開放の時間帯になると、クラブチーム等が活動を行っているのが現状としてある。夏休み期間中に関しては日中から活動していて、学校現場では中止させる環境下で子供たちが運動をしていて、ガイドラインと合致していない。先ほど話にあがった空調等設備面を含め、今後の学校開放のプランを検討していくことが必要。

また今年から学校施設の管理維持は市の包括管理業務として一括して行われることになったため、修繕等は学校の手から離れてしまった。今後は市が施設整備をどのように行うか計画を持って実施していただかないといけない。

最後に 3-③「中学校の部活動の環境整備」について、地域クラブ・人材等の登録を増やしていくことは非常に良いと思うが、懸念しているのが経済的困窮世帯の子どもたちが運動する機会を失ってしまうのではないかとという点。交通費や月謝を負担できずクラブチームに参加できなくなってしまうよう、全ての子どもたちが公平にスポーツの機会を確保できる体制を協議検討してほしい。またその点をアクションプランにも反映していただきたい。

〈事務局〉

部活動改革検討協議会の中ではその方向性を持って進めていくというところで、皆認識はしている。

〈委員〉

スポーツ推進計画はそれらの上位計画と思うので、位置づけが大事と考える。

〈会長〉

スポーツする人が65%という数値目標に対して、活動を表す指標の方が望ましいのではないかとのご指摘をいただいた。また、安全安心な施設利用が少し強調されるといい。部活動地域移行に関しては、上位計画であるスポーツ推進計画の中で必要な施策を位置づけることで、具体的な方針の決定にも良い影響があると感じた。

〈委員〉

総括的な話になるが、「スポーツをしよう」の「ライフステージや立場に応じたスポーツ活動の推進」という施策の中では、高齢者・障がい者・女性等のそれぞれ立場毎の取り組みを展開しているが、これらを分けてしまうことは一体的なスポーツの推進といえるのか。

例えば、障害の有無にかかわらず、様々な世代が集まってスポーツを行うことで、体力の向上だけではなく、人権意識等の心の成長にも繋げることができる。より広い世代や立場の人が一緒にスポーツを通じて交流するということがとても大事であり、そういった意味で施策等は柔軟に考えることが必要。

〈会長〉

「ライフステージや立場に応じたスポーツ活動の推進」では、対象を明らかにしたことによるメリットもあるが、可能性を閉じてしまうのではないかとのご指摘があった。前の議論でも高齢者の方と子どもたちが一緒にスポーツを楽しむのもいいという意見が出てきたと思うので、そういった部分が促進されるような枠組みがあるといい。また検討していただければと思う。

〈委員〉

「障がい者スポーツの推進」とあるが、障がい者に限定されているようで疑問に思った。障がい者スポーツを障がい者だけが行っても意味はない。日頃触れ合うことがない人たちを、スポーツを通して触れ合う機会を設けるとするのが一番の目標だと思う。

「絵に描いた餅」という言葉をよく使うが、この数値目標にしても、ただの目標に留まることなく、努力してやっていくことが大事。このスポーツ推進審議会では、障がい者だけ、子どもたちだけではなく、市民全体で盛り上がる一つのスポーツを進めていければと思う。

東京オリンピックパラリンピックのときにリモートでルーマニアの柔道選手の応援をしたが、パリオリンピックでは同様の応援は予定しているのか。

〈事務局〉

パリオリンピックパラリンピックでは予定していない。

〈会長〉

本日、今回のアクションプランについて多くのご意見をいただいた。少しでも意見を反映した形で次回再度ご提案させていただき、最終的な決定ができればと思う。今日用意していた議題３の案については継続ということでまた改めて次回議論させていただきたいと思う。本日の議題は以上になる。

6. その他

(事務局から次年度開催予定等の連絡事項)

(副会長挨拶)